

第6・7回生物情報ネットワーク研究会

第6回研究会「計算代数算法の理論生物学への適用」は、2005年11月28日から30日まで富士通ソリューションスクウェア（蒲田）において、“The First International Conference on Algebraic Biology”と、また第7回研究会「情報処理と生物学的意義」は、2005年12月22日に東京大学医科学研究所第一講堂において情報処理学会第3回バイオ情報学研究会とそれぞれ共同開催された。

第6回研究会は、生物情報ネットワーク研究における計算代数の適用可能性を探るために共同で開催した。3日間で plenary talk が1名、invited talk が2名を含む15人の講演者が発表を行い、参加者は3日間のべ約120名であった。講演演題中5題がネットワーク関連の研究であり、目的とした計算代数による生物情報ネットワーク研究の可能性を示唆するものであった。開催の詳細については、会議のホームページを参照されたい（<http://www.ab2005.jp/>）。また、発表論文は、Universal Academy Press から“Algebraic Biology 2005”(ISBN 4-946443-95-9)として出版された。なおこの会議は、日本バイオインフォマティクス学会の他、the Japanese Society for Artificial Intelligence, the Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation, the Mathematical Modeling and Problem Solving of Special Interest Groups in the Information Processing Society of Japan, Cybernet Systems Co.Ltd. FUJITSU LIMITED の共催で行った。

第7回研究会は、生物情報学と情報処理でのアプローチの類似点と相違点を認識し、ネットワーク研究における現状打開や今後の研究の方向性決定のヒントを探るために共同で開催した。研究会では、Sequence & structure analysis、Pathway and database、Expression analysis、Text mining のタイトルのもと、14件の発表が行われ、参加者は約80名であった。両学問分野からほぼ同じ問題設定をもつ講演が多くあったため活発な質疑応答があった。今後とも連携を密にし、互いに刺激を与えられる関係を期待している。研究開催において、情報処理学会側の世話人である渋谷哲朗博士（東大医科研）に大変お世話になった。

堀本勝久（東京大学）

麓雅樹（ノーザンサイエンスコンサルティング）